企業名：　　極東貿易株式会社

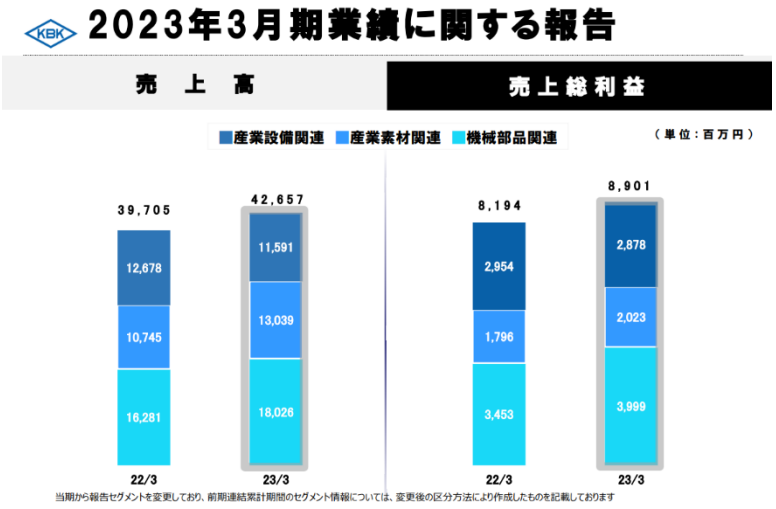
レポート名：　KBK コーポレートレポート 2022

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

将来の姿については、部門別に目標が示されていて、とても分かりやすかった。産業設備関連部門ではカーボンニュートラルの目標達成に向けた、脱炭素を実現する技術の導入やEV・半導体などの先端技術の発展への貢献が挙げられている。全体的に、カーボンニュートラルや EV 関連事業など、環境への配慮に重点を置いた目標になっている。今後の社会では、製品の良さに加え、サステナビリティや環境配慮に対する姿勢が、会社のイメージや売り上げに大きく影響すると思うので、環境配慮に関する目標が明記されていることは、読み手としては好感が持てた。

産業素材関連部門では、原材料・副資材の機能向上と環境配慮の両立、環境負荷の低減などが目標として挙げられている。こちらも環境配慮に重点を置いた内容になっている。植物由来素材の活用や水素ステーション等のインフラ設備に関するビジネスへの参加など具体的な戦略を示すことで、目標達成へのプロセスが明確化されていて、活動実現に向けた取り組みがしっかりとなされていると思った。

機械部品関連部門では、将来的な目標として、社会貢献の部分よりも、事業の成長のための目標という部分が大きいと思った。具体的には、海外で部品の現地生産化を加速することや EV 関連の受注拡大などがある。2023 年 3 月期の業績報告からわかるように、機械部品関連部門は、3 つの部門の中で、売上高も売上総利益も最も高くなっている。そのため、この部門での利益を拡大していきたいと考えるのは当然なので、利益に重点を置いた目標設定で良いと思った。



画像引用：極東貿易株式会社 2023 年 3 月期決算説明会　資料 12 ページ
20230531101242935s.pdf (xj-storage.jp)

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

明記はされていないので、わかりづらかったが、極東貿易の競争優位性は、海外に多くの拠点を持つことと環境へ配慮した事業展開だと思った。海外に拠点が多く存在することで、

世界中の高い技術を持った製品を顧客に届けることができる。さらに、販売拠点も海外に多く置いているため、海外の顧客への商品の提供や販売をスムーズに行える。さらに、サステナブルな社会を実現するための取り組みが、すべての分野で重要視され、いち早く社会の変化に対応できている点が競争優位性になっていると思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

２．で挙げた競争優位性には持続性があると読み取った。他社が、海外の拠点を増やしたり、海外の技術的に優れた製品を多く取りそろえたりするには、相当な時間がかかると考えられるため、海外拠点は今後も強みになると言える。さらに、サステナブルな社会実現に向けた部門横断型の取り組みが、2040 年頃までを見通した目標として設定されていることから、今後もサステナブルな活動を業績にも反映できると思った。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私自身の人的資本としての価値向上は難しいと感じた。コーポレートレポートを読んだ限りでは、社員に、大学の理系出身者が多い事が、強みとしてアピールされているように感じたからだ。コーポレートレポートには、理系大学出身者が、営業職で活躍しているため、顧客からの技術的な問い合わせに、迅速に対応できるという記載がある。そのため、初めから技術的な面で知識がある人ならば、会社で様々な事例に対応して、経験を積むことで、自身の能力を高めることができると思った。しかし、私のような文系大学出身者も営業職以外で活躍できる分野があるはずだが、そこは言及されていない。そのため、私のような存在は、必要とされていないのではないかと感じ、そのような会社に自分が入ったとしても自分の価値は高められないと思った。ただ、人材育成プログラムや教育・研修の制度は充実していると感じた。特に、OJT プログラムと社内研修制度は優れていると思った。OJT プログラムでは、各部署が、新入社員の育成プログラムを作成し、定期的に進捗の確認や改善を行っている。新人研修の内容が、定式化されておらず、個々に合わせて、柔軟に変化できるようになっているのは、一人一人の能力を伸ばすために良い試みだと思った。また、社内研修制度では、ビジネス英会話や貿易実務の基礎知識を学ぶことができ、内容を習得することで、自身の新たな価値を生み出すことができると思い、良いと思った。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点は、事業活動が部門別に細かく紹介されていることだ。部門ごとの紹介があることで、会社全体の事業方針だけでは見えてこない、それぞれの事業の特徴や取り組みの違いがわかり、社会に向けた透明性のある良い企業だという印象を持つことができ

た。

報告書の改善点としては、あいまいな表現が多い事と具体的な数値目標が少ない事が挙げられると思う。一通り報告書に目を通してみると、“幅広い”や“バラエティー豊か”といった大まかなくくりの表現が目立つように感じた。このような言葉を使用した文章の中に、会社としてアピールしたい内容が含まれているのならば、幅広いという言葉を使わずに、その幅広さを具体的に説明したほうが、報告書としてより分かりやすく、効果的なものにできると思った。また、今後の戦略が部門ごとに細かく記されていたことはよいと思ったが、その戦略を実践したことで得られる、利益の目標値が記されていないため、単なる社会貢献のための戦略のように見えて、会社としての成長への意識が低いように感じた。そのため、会社の将来的な成長目標を具体的な数値で明記する必要があると思った。